

❖ 理想的な「かけ心地」のフレームを選ぶ

眼鏡のフレームは、いまではファッションアイテムの一つとして認識されています。フレームは眼鏡のレンズを支持する重要な部分なので、実際のかげ心地を試してから選ぶことが大切です。

フレームの素材は、金属系とプラスチック系が主流です。少数派としては、鼈甲金、プラチナなどを使ったものもありますが、それぞれのメリットとデメリットをみていきましょう。

かつては金属系のフレームが主流でしたが、重いことが難点でした。しかし、同じ金属系でもチタンフレームが登場し、これまでよりはるかに軽い眼鏡を作ることができるようになりました。チタンの中でも最も軽いのが純チタンで、形状記憶合金とも呼ばれるチタン合金やニッケル合金もポピュラーです。形状記憶合金は40℃以上で変形させることができ、それ以下の温度では曲がっても元の形に戻ります（ただし、氷点下では変形します）。形状記憶合金フレームは、フィッティング時にその人にきちんと合わせれば、その状態を長く保つことができます。

また、ここ近年の主流となっているのが、プラスチック製のセルフレームです。カラフルなものが多く、金属系よりも軽くて値段が安いことで人気を呼びました。「近視や遠視、老眼の人が使う医療器具」というそれまでの眼鏡のイメージを払拭しました。

以前はセルロイド製が主流で、そこから「セルフレーム」という呼称がうまれましたが、いまではそのほとんどがプラスチック系素材を使っています。セルロイドは燃えやすく匂いもあるというデメリットがあり、現在はほとんど使われていません。

プラスチック系の素材にはほかにも、アセテートやポリアミド、オプチル、弾性素材TR90/70などの種類があります。これらの素材はどれも軽く、変形しにくいなど、従来のフレーム素材にはなかった特性で高く評価されています。テンプルがアーチ状になっているものは側頭部の形とフィットし、軽いのに外れにくいので快適感があります。

フレームの形状もさまざまです。レンズを枠で囲ったフルリム、レンズをネジや専用のパーツで固定したツープイント、レンズの上半分だけをフレームで支え下半分をナイロン糸で吊るナイロールが代表的です。

フルリムは比較的丈夫ですが、フレームの印象が顔に強く出ます。逆にツーポイントが縁がないので顔の印象はあまり変わりませんが、衝撃に弱く、なにかに強くぶつかったりすると、レンズ縁のネジを止める部分が折れてしまいます。小さな子どもをおもちの方は、抱きかかえたときに眼鏡をさわられて壊れることを心配して、ツーポイントを避けることが多いようです。レンズが割れて眼に入ると、とても危険です。ナイロールはレンズを支えているナイロン糸が劣化し、切れるとレンズが外れることがあるので、定期的なメンテナンスが必要です。

POINT

フレームの「かけ心地」はフィッティングで確かめる